

令和5年度 富士見市立針ヶ谷小学校 学校経営方針

令和5年4月3日

校長 本木 千穂

- ◇埼玉県教育振興基本計画 豊かな学びで未来を拓く埼玉教育
- ◇富士見市教育振興基本計画 学びあい人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育

I 学校教育目標

かしこく、仲良く、たくましく

○自分で考える子（知）

○助け合う子（徳）

○じょうぶな子（体）

II 学校経営方針

「一人一人の子供が主語」の学校

～子供が学びあう・育ちあう・高めあう学校～

III 目指す子供の姿

○自分で考える子

→ 自ら学習に向かい、自分に合った方法を選択しながら、学びをデザインできる子

○助け合う子

→ 多様な集団の中で、他者のよさを理解・尊重し、協働できる子

○じょうぶな子

→ 心も体もじょうぶで、やり抜く力のある子

IV 目指す学校の姿

○一人一人の子供が主語の学校

- ・子供が学びあう、育ちあう、高めあう学校
- ・誰一人取り残さず、一人一人のよさや可能性を最大限引き出す学校

○学ぶわくわく感とできた感、安心感がある学校

- ・子供が学ぶことを楽しい、できたかもと感ずる学校
- ・失敗から学べ、助け合える学級風土がある学校

○健康・安全に努める学校

- ・学校・家庭・地域の連携し、子供の健康・安全のために協働できる学校
- ・心身ともに健康でやり抜く力が育つ学校
- ・子供の視線を意識した施設設備の安全に努める学校

○子供・保護者・地域・教職員が共につくる学校

- ・子供、保護者、地域、教職員が、自分が学校をつくる大切な一員であるという当事者意識をもっている学校

○教職員が安心して本務に力を注ぎ、協働できる学校

- ・学校の本質を捉え、働き方改革を推進する学校
- ・教職員一人一人のよさを互いに認め合い、協働できる学校

V 目指す教師の姿

○一人一人の子供のよさや可能性を見出す教師

- ・一人一人のよさを認め、励まし、言葉で伝える教師
- ・多様性を認め、寄り添い、一人一人を大切にしている教師

○主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たす教師

- ・「教師が教える」から「子供が学ぶ」への転換ができる教師

○学校をつくる組織の一人として協働できる教師

- ・学校をつくる大切な一員であることを自覚し、一人一人のよさを互いに認め合い、協働できる教師

○自身も学び続ける教師

- ・10年後20年後に必要な「未来を拓く力」が育つには、教師はどうあるべきか、自身も学び続ける教師

○保護者や地域に信頼される教師

- ・保護者や地域の声に耳を傾け、誠意ある対応ができる教師
- ・教育公務員としての自覚をもち、コンプライアンスの徹底ができる教師

VI 今年度の重点

1 令和の日本型学校教育 針ヶ谷小Ver. の推進

- ・自ら学習に向かい、自分に合った方法を選択しながら、学びをデザインできる子の育成
- ・個別最適な学びと協働的な学びの日常化
- ・「GIGAスクール構想に係る富士見市教育ビジョン」のもと、STEM教育の推進、ICT機器の文房具化による学びの質の向上
- ・子供の主体的な学びを支援する伴走者としての教師への転換

2 学校・家庭・地域が共にある学校づくりの推進

- ・学校・家庭・地域が当事者意識をもって学校づくりに参画
- ・カリキュラムマネジメントの視点による、地域の教育力や資源の活用
- ・PTA、学校運営支援者協議会との連携

3 働き方改革の推進～子供と笑顔で向き合うために～

- ・働き方改革へのマインドセット、学校の本質を捉えた業務・行事の精選
- ・プロジェクト型の組織体制の構築
- ・集金業務を口座振替にし、電子化による仕事の効率化と事故防止